

作成番号:0307

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

号数:2025-307

内容:肥満症治療薬である GLP-1 受容体作動薬で飲酒量がほぼ 3 分の 1 に減少

出典:Glucagon-like peptide-1 analogues reduce alcohol intake.

Diabetes, obesity & metabolism. 2025 Mar;27(3);1601-1604.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39748222/>

GLP-1 (グルカゴン様ペプチド-1) は、血糖降下作用のほかに、食欲を抑えたり、胃の内容物の排出を遅延させたりする消化管ホルモンで、食欲抑制作用の一部は脳への直接的な働きかけによるものと考えられている。肥満症治療における減量目的でも処方されることのある GLP-1 受容体作動薬 (GLP-1RA) の使用によって、アルコール摂取量が減少するか否かを、ダブリン大学 (アイルランド) の研究者らが調査し、「Diabetes, Obesity and Metabolism」1 月 2 日号に、その結果が掲載された。

BMI27 以上で GLP-1RA (セマグルチドまたはリラグルチド) による肥満治療を受けている成人患者 262 人 (平均年齢 46 歳、女性 79%) を対象に実施された。治療開始前の自己申告により、全体の 11.8% が非飲酒者、19.8% が機会飲酒者、68.3% が習慣的飲酒者に分類された。262 人中 188 人が 3~6 カ月後の追跡調査でこの間に飲酒量が増加した患者はなく、習慣的飲酒者の場合、飲酒量が 68% 減少していた。

約 4 カ月で飲酒量がほぼ 3 分の 1 に減少と言うのは、アルコール依存症の治療目的で使用される薬剤 (ナルメフェン) の効果に匹敵する。ただし、本研究は参加者数が少数であること、GLP-1RA を使用しない比較対照群を設けていないことなどを、解釈上の留意が必要である。

Alcohol Intake - Initial and Final

